

<資料1>

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教員養成部会 事例発表

「体験活動」をテーマにした

教員免許状更新講習(予備講習)

独立行政法人国立青少年教育振興機構

平成20年10月6日(月)



# 講習の概要

教科指導, 生徒指導その他教育の充実に関する事項

## 本部(東京都)

- 7月28日(月)~30日(水)  
2泊3日
- 18時間プログラム
- 応募:130名, 参加45名
- 履修認定45名
- 評価結果 97%(肯定)

## 淡路交流の家(兵庫県)

- 8月19日(火)・20日(水)  
2日間
- 6時間プログラム×3
- 応募:82名, 参加78名
- 履修認定78名
- 評価結果 93%(肯定)



# 機構の概要(施設)

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立オリンピック  
記念青少年  
総合センター

国立青少年  
交流の家  
(13施設)

国立青少年  
自然の家  
(14施設)



テーマ: 体験活動を通じた青少年の自立



# 機構の概要(事業)

青少年の健全育成

青少年教育の振興

研修支援事業

企画事業

調査研究事業

連絡協力促進  
事業

子どもゆめ基金  
事業



# 平成19年度利用実績

---

- 総利用者数 477万人
- 青少年団体等 145万人(30%)
- 学校 173万人(36%)
  - ・小学校 43万人
  - ・中学校 52万人
  - ・高等学校 40万人



# 講習の内容(本部)

1日目

子どもの成長  
と生活リズム

清掃体験が  
心をはぐくむ

2日目

ツリー  
クライミング

火起こし体験

昔遊びの  
道具づくり

ビジュアル  
オリエンテーリング

体験活動の  
安全管理

3日目

体験活動の  
教育的意義

学習指導要領  
と体験活動

履修認定試験



## 講習の目的

---

- 教員自身が「体験」をする。
- 「体験活動」の教育的意義を理解する。
- 「体験活動」の指導方法や授業に活用する手だてを、体験を通して理解する。

# 体験活動の指導方法 (ビジュアルオリエンテーリング)

グループで目標設定



グループで活動



グループと全体で  
振り返り

<例>

- ・高い得点をとる。
- ・グループで協力する。
- ・自然に親しみ、のんびり歩く。

- ・目標は達成できたか。
- ・その理由はなにか。
- ・その他に気づいたこと。 など





# 「体験活動」をテーマにした 講習会の意義

---

- 学校教育法の改正（平成13年）

- ①各学校種の教育目標の達成に資するよう、教育指導を行うに当たり、児童生徒の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努める。
- ②社会教育関係団体その他の関係団体及び関係機関の連携に十分配慮する。



# 「体験活動」をテーマにした 講習会の意義

---

- 教育再生会議第二次報告（平成19年）  
提言2 様々な体験活動を通じ、子どもたちの  
社会性，感性を養い，視野を広げる。
  - ・小学校で，1週間の集団宿泊体験や自然体験・農林漁業体験活動を実施。
  - ・中学校で，1週間の職場体験活動の実施。
  - ・高等学校で，奉仕活動の必修化。



# 「体験活動」をテーマにした 講習会の意義

---

- 教育振興基本計画（平成20年）

基本的方向1 社会全体で教育の向上に取り組む。

【施策】放課後や週末の子どもたちの体験・交流  
活動等の場づくり

- ・小学校で自然体験・集団宿泊体験を全国の児童が一定期間（例えば1週間程度）実施できるように目指す。



# 「体験活動」をテーマにした 講習会の意義

---

- 「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」

－中央教育審議会・答申－（平成20年）

## ○教育内容に関する主な改善事項

### 「体験活動の充実」

- ・学校教育における体験活動機会の確保
- ・指導方法の工夫
- ・一定期間（例えば1週間程度）の実施



# 「体験活動」をテーマにした 講習会の意義

---

## ■「小学校学習指導要領」(平成20年)

### 第1章 総則

#### 第1 教育課程編成の一般方針

- 2 道徳教育を進めるに当たっては、・・・集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるように配慮しなければならない。



## 受講者・事前アンケート

---

### ■ 教員自身の「自然体験」

- ・とても多い: 2人, やや多い : 17人計19人
- ・あまりない: 18人, ほとんどない: 6人計24人

### ■ 教員自身の「自然体験の指導経験」

- ・とても多い: 1人, やや多い : 8人 計 9人
- ・あまりない: 22人, ほとんどない: 13人 計35人

<アンケート対象: 45人>



# 受講者・事後アンケート

## ■ 各講座の満足度

〈アンケート対象：45人〉

- ①子どもの成長と生活リズム：44人
- ②清掃体験が心をはぐくむ：41人
- ③体験活動の教育的意義：45人
- ④学習指導要領と体験活動：42人
- ⑤体験活動の安全管理：45人

- ・講座ごとに、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」で回答。
- ・満足度の数値は、「満足」「やや満足」の合計。



# 受講者・事後アンケート

<アンケート対象:45人>

## ■ 各講座の満足度

⑥ツリークライミング	:44人
⑦火起こし体験・ソーラークッキング	:41人
⑧昔あそびの道具をつくる	:41人
⑨ビジュアルオリエンテーリング	:45人

- ・講座ごとに、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」で回答。
- ・満足度の数値は、「満足」「やや満足」の合計。





## 受講者・事後アンケート

---

- 参加者の声（肯定的な意見）
  - ・体験活動が子どもの成長にとっても重要だということを、講習を通して具体的に理解できた。
  - ・自分自身が体験することが教員の力量にとって大事だと改めて思った。
  - ・宿泊ということで、他県の教員との交流が持てた。



## 受講者・事後アンケート

---

- 参加者の声（要望）
  - ・体験活動はもう少し時間に余裕をもって行えるとよかった。
  - ・講義は1コマ, 2コマ程度で, 体験活動を多くして欲しかった。
  - ・履修認定試験の内容を考えるべきだ。
  - ・今回のように, 障害を持つ人も受講できるように配慮して欲しい。



## 受講者・事後評価（本省指定）

---

- 講習の効果（受講者の事後評価結果）

○合計 97%（強く思う＋だいたい思う）

○「強く思う」が80%以上の項目

- 学習意欲がわくような工夫をしていた。
- 開設者の運営は適切であった。
- 全体を通して、他の教員にも勧めたい講習であった。



# 機構が実施する講習の特色

---

## ■ 参加型研修

- ①教員自身が体験する。
- ②体験と講義を組み合わせることで、理解が深まるとともに、興味・関心が高まる。

## ■ 宿泊研修

- ①選択18時間を集中して受講できる。
- ②遠方の教員が参加しやすい。
- ③教員どうしの交流が図れる。



## 更新講習全体の課題

---

- 開設数の確保と情報提供の充実
  - ・20名の募集に対して130名超の応募。
  - ・選択の場合, 6時間や12時間のプログラムにすると, 複数の講座を受講する必要性。
- 履修認定試験のガイドライン的なものの策定
  - ・履修認定試験問題の内容や評価の基準。